

## 第1回新宿区文化芸術振興会議（第4期）議事要旨

- 開催日時 平成28年11月4日 午後3時から午後5時まで
- 開催場所 新宿区立新宿歴史博物館2階 講堂
- 出席者 吉住健一 新宿区長  
委員 垣内恵美子 高階秀爾 星山晋也 松井千輝 松島貴美子 的場美規子  
大野順二 中島隆太 大和滋 市川治郎 舟橋香樹  
\*敬称略、文化芸術振興基本条例に規定する分野別の順  
事務局 村上文化観光産業部長 橋本文化観光課長 原文化観光係長 土肥主任

### ■議事の進行

- 1 開会  
会長選出までの間、村上文化観光産業部長及び橋本文化観光課長が会議の進行を務めた。
- 2 委員の委嘱  
事務局が委員の紹介を行った後、吉住区長が各委員に委嘱状を交付した。  
\*任期：平成28年9月9日から平成30年9月8日まで
- 3 区長挨拶  
吉住区長が、会議の開催にあたり、挨拶を述べた。

#### 〈挨拶要旨〉

- 第1期委員の提言に基づいて実現した新宿フィールドミュージアムは、ブラッシュアップしながら発展してきている。2020年に向け、文化プログラムも実施しなければいけない背景があるため、しっかり文化芸術を振興して展開していきたい。
- 第3期の活動報告会では、東京2020大会の開催に向けた新宿区の文化芸術振興について報告・提言をいただいた。更に発展させていく必要があるため、第4期も引き続きご議論いただきたい。

- 4 会長の選出  
新宿区文化芸術振興会議規則第4条第1項及び第2項の規定に基づき、委員の互選により、全員一致で、高階委員を会長として選出した。
- 5 会長挨拶  
高階会長が、会長就任にあたり、挨拶を述べた。
- 6 副会長の指名  
新宿区文化芸術振興会議規則第4条第2項に基づき、高階会長が垣内委員を副会長として指名した。

## 7 議事

- (1) 本日の進行は、次第によることとし、議事については、事務局からの資料説明の後、質疑等を含めて意見交換を行うことを確認した。また、検討内容のとりまとめと資料として保存することを目的として、会議の録音及び撮影について、各委員の了承を得た。
- (2) 「新宿区文化芸術振興会議の運営（進め方）について」  
資料2に基づき、事務局が一括して説明を行い、第4期の活動は資料のとおり運営することが確認された。
- (3) 「新宿区文化芸術振興会議の調査審議事項について」  
資料2に基づき、事務局が一括して説明を行い、第4期の調査審議事項を資料のとおりとすることを決定した。
- (4) 決定した調査審議事項について、専門部会で論点整理を行い、次回会議で審議することが確認された。なお、専門部会の設置及び専門部会員の指名は、意見交換後に行った。
- (5) 意見交換

### 【以降、意見交換】

- 文化芸術振興基本条例が取りまとめられた際の「文化芸術の振興に関する28項目の提言」を実現するために、新宿区では大変さまざまな施策が着実に進められてきたと認識している。テーマによっては、進捗の緩急があるが、文化芸術振興会議で議論された内容も、十分に取り入れていただいているのではないかと思う。
- 早急に検討するべきというテーマの1つ、「新宿フィールドミュージアム・アクション2020」を具体的に進めていきたい。私たち区民が、一緒に協働して文化芸術を振興していく新宿区の基本条例の特徴を、さらに前に進めていくという意味で、その原動力になるのではないか。
- 新宿フィールドミュージアムのガイドブックの配布数が、まだまだ足りない。できれば新宿区の全世帯、全企業、あるいは人が集まるところには積んであると望ましく、積極的に置いてもらえるよう働きかけていただきたい。区内には、たくさん印刷会社があるので、分散して印刷できれば、新宿区としても産業の活性化となり良いのではないか。
- 新宿フィールドミュージアムでは、6つの地域＝ヴィレッジとし、それぞれが特性を持った地域として形成されているとあり、そのこと自体が、他の区とは少し異なった特徴的な部分ではないかと思う。
- 今後の課題として、文化芸術を切り口としたブランディング、新宿区のブランディングを考えると良いと思う。新宿区には、文化資源も多くあり、多くの人がそれを感じている中で、どう発信していくかを上手に組み立てていけば、文化を切り口とした新宿区のブランディングというのが成立するのではないか。
- 新宿は、都庁があり、東京の中心、つまり日本の中心で、全世界から日本に集まってくる、最も注目されるまちだと思う。もちろん経済の面だけでなく、文化芸術という面でもさまざまな資源を持っている。繰り返しさまざまな手法を使って、広報、宣伝、発信していく必要があると思う。
- 今回の調査審議事項として2つ挙がっているが、新宿文化センターについて、皆さんと考え方を共有していきたい。あのような大きな文化ホールを、今後どう活用していくのか、文化

センターをどういうものにしていくのかという運営方針についての議論が十分にできていない。

- 先日、新宿文化センターで歌舞伎の公演があったが、電車ですぐ行けるようなところに歌舞伎座や国立劇場があるのに、なぜ新宿文化センターで歌舞伎をやらなければいけなかったのか。この辺りの考え方をしっかり整理しておく必要がある。
- 今後、どんなジャンルでもありとしていくのか、区民が誰でも使える施設というレベルに留めるのか。もし、区民だけが使う施設なのであれば、もっと小さい施設をつくれれば良いだろうが、もう少し都内に発信していくということも含めて考えるのであれば、ある程度きちんとしたレベルの仕様と専門人材を置かないといけない。その判断をそろそろしなければいけない時期になっているのではないかと。新宿区なのだから、新宿の文化は一体何なのかというものが蓄積されるような方向に持っていけないと意味がないのではないかと思う。そういう考え方を共有して、議論が進められれば良い。
- フィールドミュージアムのガイドブックのとて小さい字は、カスタマーファーストになっていない。また、2カ月間これを持ち続ける方は、まずいのではないかと。例えばガイドブックを2週ずつ分けて作成し、第1ステージから第4ステージとし、それぞれのステージごとにメインイベントになるようなものを据えて、ファイナルステージとなる第4ステージは、例えば文化センターでイベントのようなものと良いのではないかと。
- 新宿区の魅力とは、「何でもあるあやしいまち」ということ。歌舞伎町のあやしさに吸引されてこのまちに来ることもあるし、神楽坂には芸者さんがいるように、何でもある。また、昨年度は年間2,000万人の外国人が訪日したそうだが、そのうち1,470人強は中国語圏と韓国語圏になる。そこを意識していくべきで、そういう外国人にとって魅力がある文化が、実は新宿の中にたくさんある。
- フィールドミュージアムのアイデアになるが、例えばファイナルステージには、どこかのパレードで芸者さんを見ることができるよう、そんな財産、資源がたくさんあるので、明確なコンセプトを持ちながら特色を生かしていく方法を考えていくと良いのではないかと。
- 昨今クラシック専用ホールは、総合的なホールも含めて閉館が相次いで、音楽鑑賞をすることができないのが実情。土日は、どこのホールも空きがなく、演奏会ができない状況が続いている。他のホールの改修期間は文化センターにとってはチャンスだと思う。
- 「2020年のオリパラに向けて文化活動をしなければならぬ」と、よく聞かすが、しなければならぬではなく、文化活動ができるチャンスである。そう捉えて、文化センターも有機的なことに取り組んでいけるのではないかと。
- ヨーロッパは、やはり文化が全然違う。文化の捉え方が違うと思うが、どこのホールも古い。日本と比べて地震もない等いろいろな要素があるが、まちにあるホールをとて大切にしている。舞台も汚いままで、チェロのエンドピンを床に刺したりするので、床に穴もあるが、それが味になっている。ヨーロッパでは、楽屋は改修されているが、ステージ周りや客席は全然改修していない。やはりホールも楽器の一部であり、その中から何十年何百年と培ったものから良い音が出てくるのだろうなということも、そこで再認識した。
- ここ数年新宿区では、子ども向けの文化芸術プログラムがとて充実してきている。
- 固定概念を払拭しないと、様々な取組みは浸透していかないのではないかと。子どもを巻き込むことによって、家族を含めて鑑賞者が非常に増えていくので、その点を踏まえた子どもた

ちのためのプログラムを今後も増やしていただきたい。

- 神楽坂のまち飛びフェスタにおいて、さまざまなアーティストによる作品が展示・販売されており、来場者が投票して1位になったアーティストは、個展を開催するためのギャラリー使用权を手にする事ができるという素晴らしいイベントを行っていた。こういった活動も短期的なものではなく、長い目で取り組んでいけたらとても素晴らしい。
- 文化センターは、やはり非常に古い劇場なので、バリアフリーになっていないとか、トイレの洋式が少ないとか、子どもを連れていくには使いにくい場所という認識がある。子ども向けのプログラムがたくさん行われていて良いが、多種多様なプログラムのあまり、雑多な劇場という印象は否めない。また、センター自体が、洗練されておらず、昭和的なイメージで、エントランスホールからして既に暗い雰囲気だと思う。その辺りも含めてどのような感じにするのかということや、区内には他にもたくさんホールがある中で、このホールだったらこういうものをする、文化センターではこういうものをするということ、どのように決めていくのかは、非常に関心がある。
- 新宿芸術天国のチラシは新聞広告で入ってきたが、フィールドミュージアムのチラシは入ってこない。こういうチラシ等は手元に届かないと、素晴らしいイベントを行っていても知ることができないので、もう少し広報活動にしっかり取り組んでいけたらと思う。
- 文化センターの運営に関して、子ども劇場での経験からは、子どもに文化を届けるときは、身近なところで、難しいことよりも生のプロのものを見る・聞くということの方が、はるかに子どもの心に残るし、「また、観たい」という子どもの感動に繋がる。そのため、子どもを対象にするのであれば、アウトリーチとして、プロが学校や幼稚園に訪れ、文化体験を行う方がはるかに有効である。
- 「アクション2020」を考える上で、区民の方に対する取組みももちろんであるが、新宿は、来街者、インバウンドの方が非常に多いまちなので、特にインバウンドの方に対する考えもきちんと打ち出していく必要があるのではないか。
- 歌舞伎町にある「ロボットレストラン」が、何故インバウンドのお客で賑わっているかを分析された方によると、海外の方は、夜も楽しめるイベントを探すが多いが、東京ではなかなか夜を楽しむ場所がないから、夜にイベントが行われるこのレストランが賑わっているとのこと。「2020」を銘打つのであれば、まだ取り組んでいない夜のイベントも検討してみても良いのではないか。
- 新宿フィールドミュージアムの告知方法について、新宿にはイベントに関するポスターがあまり無いのではないか。ガイドブックを手にとらなければなかなか伝わらないことが非常に勿体ない。予算の都合もあると思うが、もっと視覚的に周知する方法があっても良いのではないか。
- 最近、ゲーム音楽をオーケストラにする取組みが非常に流行っており、世界中で人気になっているそうなので、サブカルチャーのまちである新宿も、文化センターで是非取り組んでみると良いのではないか。また、文化センターのパイプオルガンはとても素晴らしくウリにしていると思うので、大人の社会科見学のように大人向けにパイプオルガンを観てもらおう企画があっても良いのではないかと思う。
- フィールドミュージアムのガイドブックは大変素晴らしいが、いわゆる固定された地域文化、かつてここに誰々が住んでいた等の情報や案内も掲載されていると良い。

- 新宿区の特徴も大事だが、新宿区だけではない他に共通してあるものにも注目していきたい。また、2020年に向けての取組みも大事であるが、地域文化財は恒常的に積み重ねていくものなので、そういう面で協力していきたい。
- 来年開館する漱石山房記念館と新宿歴史博物館とのすみ分けについても、皆様からご意見をいただきたい。
- 平成30年度からの新宿区の新総合計画に対して、攻めの姿勢で提言をしていくことを考えると、今後かなりのスピード感を持って、少し焦点を絞って議論していく必要がある。
- 第3期の報告書にも一部記載しているが、「文化は弱い、あるいはマーケットで成り立たないので補助をしていかなければならない」という旧来型の考え方から、より攻めの文化政策、営利活動を含む投資という考え方に少しずつ変化してきている。ヨーロッパでも、政府が丸抱えで文化を支援することはほぼ無くなりつつあると感じた。クラウドファンディングを含めた小口の投資をどのように集めるのかという方向に、かなりの関心が移ってきている。
- 官・民、あるいは公の立場で何にどう取り組んでいくのかということ、今後考えていく必要があるのではないか。
- フィールドミュージアム・アクション2020や、文化センターについて考えていく1つの切り口として、寄附金も含めてマーケットを考えていく必要や、カスタマーとその先にいるサポーター、それからその先にいるタックスパイヤーと全部を見渡しながらか、ポジションづくりをしていく必要もある。
- 戦略論的には、何をやらないかを決めることもあるので、従来型の考え方から少し脱却していく必要もあるのではないか。
- 若い世代は、インターネット経由で情報収集を行っているようなので、それに対応した情報発信も考えなければいけない。文化資源を含めたフィールドミュージアムの発信も、行政の仕事として行うのか、何かしかるべき機関に任せるのかということも、戦略を練ってきたい。
- これぞ新宿という魅力、家康以来、新宿はもちろん江戸で文化を養ってきた歴史的な魅力をどう生かしていくか、伝えていくかも考えていきたい。先日までサントリー美術館で開催していた「鈴木其一 江戸琳派の旗手」では、19世紀になって文化の中心が上方から江戸中心になっていく1つの大きな歴史の流れが見える。そういう歴史的な動きを、一般の方に分かりやすい形で、講座か何かイベントを通して伝えていくことも、フィールドミュージアムの取り組みとして考える必要があるのではないか。
- 今回の調査審議事項の1つは、「フィールドミュージアム・アクション2020の制定」についての提言なので、フィールドミュージアムの中身に関しても、具体的なご提案、あるいはヒントをいただきたい。
- もう1つの調査審議事項である文化センターについては、施設や設備の老朽化の問題やパイプオルガンの活用方法について、また、センターの利用目的を限定するか、多目的で利用可能とするか等々、議論が続いているが、最終的に文化芸術の振興にどうすれば良いかということ、行政にいろいろお知恵を出していただき、審議していきたい。
- 新宿フィールドミュージアムもSNSで発信するのが良いと思ったが、フェイスブックを見たところ、「いいね」の数が極端に少なく、発信していても、受手がそのことを知らなければ意味がないし、安易にSNSに頼れば良いという考え方では広まらないと思う。例えば、

有名人のインスタグラム等に載せていただくと情報が一齐に拡散されるので、その方法はどうか。

- ペーパーレスが主流となっている中で、印刷物を増やそうという方向は時代的にはどうかと少々疑問に思う。
- 高齢化社会なので、高齢者にはペーパーが必要。一方で、若い世代へのアプローチの仕方もあると考えていかなければいけない。SNSを使うとしても、やはり戦略を練って取り組まなければならない。ただ情報をインターネット化すれば良いというわけではなく、当然ターゲットも考えながら、インターネット化する方法があると思う。
- ガイドブックやチラシが駅に置いてあっても、文字が細かいものはそのまま素通りしてしまう。はっと目につくようなデザインも必要なので、戦略を練って焦点を絞った情報を掲載することもできると思う。配布や発信の方法も含めて、行政でも少し考えていただきたい。
- 情報化社会で電子に頼ってはいるものの、実体験の強さというものがとても大切である。ガイドブックのような印刷物、紙媒体というものも大切。新宿へ足を運んでいただくための手段としてはスマートフォンでも携帯でも良いが、実際にここに来ないと分からない良さは残しておかなくてはならない。
- 博物館、美術館等に、決して宝物館にはなあってほしくない。宝物を大事に飾っておくのではなく、外国では、モネやマネの実際の大きな絵の前で、幼稚園生が寝そべて絵を描くことがあるようなので、そのような体験を、豊かな文化や歴史のある新の子どもたちが味わう時間を作りたい。小さい頃から新宿の良さを体験して大人になれば、世界各国から集まる人たちにも芸術的な対応ができるようになるのではないかと思うので、その点も提言に盛り込んでいただきたい。
- 議事の（１）の会議の進め方については、資料２の通り進めていきたい。
- 議事の（２）の今期の調査審議事項については、「新宿フィールドミュージアム・アクション２０２０の制定」に向けた提言と、「新宿文化センターの運営方針の明確化」のための提言の２点とし、議論を重ね、提言としてまとめていきたい。

## ８ 専門部会の設置及び専門部会員の指名

新宿区文化芸術振興会議規則第６条の規定に基づき専門部会の設置が決定され、同条第２項の規定に基づき、高階会長が、垣内副会長、大和委員、舟橋委員を専門部会員として指名した。

## ９ 事務連絡等

第２回目の会議は、２月～３月頃に開催予定とし、日程や会場等については、別途事務局から連絡することとした。また、専門部会は、部会員と相談のうえ、２月頃に開催予定とするとした。

## １０ 閉会

会長の挨拶をもって、午後５時に閉会した。